

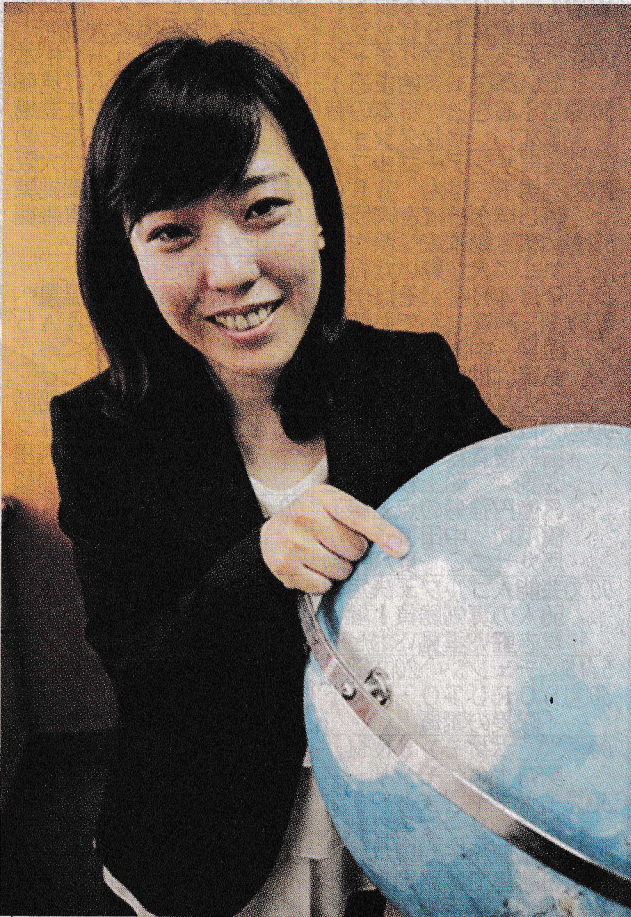
期待胸に憧れの地へ

南極地域観測の第61次観測隊の同行者に、本県から県立守谷高校教諭の北沢佑子さん(32)＝取手市＝が選ばれた。

昭和基地からインターネットなどを使って、高校の生徒に授業を行う。県教委によると、本県の教員が南極へ行くのは北沢さんが初めて。出発は11月。北沢さんは「南極での経験を生徒に還元したい」と抱負を話す。

北沢さんは筑西市出身。理科の教員で専門は生物だ。昨年度、国立極地研究所の「教員南極派遣プログラム」に応募し、書類審査と面接を経て選ばれた。筑波大大学院時代に観測隊に参加した教授の経

北沢教諭(守谷)南極観測隊同行



第61次南極観測隊に同行する県立守谷高校教諭の北沢佑子さん＝守谷市大木

験を聞いて以来、南極に憧れを抱いていた。「本職の教職をしっかりとってから『いつ

か自分も』という気持ちを持っていた。一度きりの人生。いろいろ経験したい」と期待

に胸を弾ませる。同隊は71人編成で、越冬隊と夏隊に分かれる。北沢さんは夏隊に同行し、現地から生徒に「南極授業」を行うほか、同隊による観測や設営などにも携わる。帰国後は南極への

「経験を還元したい」

で地業
基授
和ネ

理解を深めてもらうため情報発信などをしていく。国立極地研究所によると、派遣プログラムの同行者参加は、第51次観測隊から続いている。

北沢さんは11月下旬に空路で日本を出発。オーストラリア・フリーマントルで南極観測船「しらせ」に乗り込み、昭和基地へ向かう。基地には2020年1月に到着。「南極授業」を1月下旬から2月上旬にかけて行い、3月下旬に帰国する予定だ。

北沢さんは「観測隊員は地球のために命を張って闘っている。熱い『南極魂』のようなものがある。それらを学んで、南極から持ち帰った経験を生徒に伝えたい」と意気込みを語る。